

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Higher risk of respiratory infections and otitis media in cleft lip and/or palate patients: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

口唇口蓋裂患者における呼吸器感染症および中耳炎の高いリスク: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 大阪ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2024

DOI: 10.1265/ehpm.24-00150

筆頭著者名: 黒坂 寛

所属 UC 名: 大阪ユニットセンター

目的:

口唇口蓋裂は先天性顎顔面形成不全の一つであり通常分離するはずの口腔と鼻腔が連続してしまう疾患です。口唇口蓋裂患者の包括的な健康管理を行うためには口唇口蓋裂と付随して起こる全身の問題との関連性を探索する事が重要です。本研究は口唇口蓋裂の病歴と中耳炎や上気道炎(いわゆる風邪)発症との関係を解明することを目的としています。

方法:

エコチル調査の参加者を対象に口唇口蓋裂の既往と中耳炎、上気道炎、インフルエンザなどの感染症罹患の1歳児までにおける有無の関連性を調査しました。

結果:

口唇口蓋裂を有するグループはそうでないグループと比較して1歳児までに中耳炎や上気道炎に罹患するリスクが高い事が分かりました。一方でインフルエンザに関しては両グループにおいて有意な差は認められませんでした。

考察(研究の限界を含める):

本研究結果から口唇口蓋裂を有する人は1歳時までに上気道炎や中耳炎の罹患リスクが高い可能性を示唆しています。原因としては口唇口蓋裂では口腔と鼻腔が交通している事や口唇口蓋裂を治療する上で必要な手術瘢痕によって耳管の狭窄が起こる事が考えられます。一方でインフルエンザなど高い感染力を持つ感染症に関しては口唇口蓋裂がリスクとならないことが示唆されます。本研究の限界は、本研究結果で用いた感染症の結果は問診表に基づくものであり、医学的な検査を受けていない事です。

結論:

口唇口蓋裂を有する場合1歳までに上気道炎や中耳炎罹患のリスクが高いため注意が必要です。